

Salon

Vol.96 2015年5月 新緑号



ホール2Fホワイエ壁画 ポール・ギアマン作「野外のヴァイオリニスト」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — 渡邊規久雄
- 03 Phoenix Presents — セルゲイ・カスプロフ ピアノリサイタル
今井信子presents ロマンティック・トリオ〜クラリネット・ヴィオラ&ピアノ
- 05 Pick Up
- 06 Phoenix Spot — 「アキラとの思い出」 中村功
- 07 Memories of 20 seasons — ザ・フェニックスホール 秀逸フライヤーでたどる20年
- 11 Essay de say — 西洋音楽は「気取り」の文化？ 中野振一郎

フィンランドゆかりの名ピアニスト シベリウス作品を特集して7月マチネに登場 渡邊規久雄さん



《真夏のシベリウス》とは涼しげなコンサートだ。北欧フィンランドの作曲家ジャン・シベリウスが残した、愛すべきピアノ独奏曲の数々——爽やかな美しさと澄みわたる抒情が、ふかい透明感と共に響くひととき。フィンランドの血を引き、この作曲家をとりわけ得意とするピアニスト・渡邊規久雄が選りすぐった、シベリウス珠玉の作品たちをお届けする。森と湖の国が育んだ自然……厳しい冬に凜と耐えた樹々の静かな立ち姿に優しさや孤独を見出し、春を迎えてほころぶ可憐な花の香りに愛情を寄せる小品たち。その清々しくも気品高いピアノ曲は、鍵盤に豊かな彩りも広げながら、暑い夏にも気持ち良い風を感じさせてくれるだろう。オリジナル作品集だけでなく、名作《フィンランディア》など広くおなじみのオーケストラ作品からの編曲も加えて、北欧の巨匠が残したピアノ曲の小宇宙にじっくりと聴き惚れる。コンサートを前にピアニストにお話を伺った。(取材・文・写真:山野雄大)

渡邊規久雄(わたなべ・きくお/ピアノ)

1974年インディアナ大学を成績優秀賞で卒業。1976年に同大学院を修了。同年のデビュー・リサイタル以降、国内のみならずサンクトペテルブルク、モスクワ、ハバロフスクなど海外でもオーケストラと共演。ショパンのポロネーズ全曲、シューベルトの最後の3曲のソナタ、オール・シベリウス・プログラムによるリサイタル、リガ、ヘルシンキ、東京、大阪、名古屋などでの寺田悦子とのデュオリサイタルと、精力的に演奏活動を行っている。北欧、特にフィンランド音楽に造詣が深く、オール・シベリウス・リサイタルのライブCD3枚を発表。レコード芸術特選盤に選ばれるなど高い評価を得ている。寺田悦子との「デュオ・ピアノで聴く「春の祭典&ラフマニノフ」」をオクタヴィア・レコードから、「シベリウスのヴァイオリン作品集Ⅰ・Ⅱ(ヴァイオリン:佐藤まどか)」をALMレコードからリリース。武蔵野音楽大学ピアノ科教授。毎年8月にはドイツのインター・ハーモニー音楽祭で演奏とマスタークラスを行っている。

「真夏のシベリウス-渡邊規久雄ピアノリサイタル」は、2015年7月17日(金)午後2時開演。入場料3,000円(指定席)、友の会2,700円。学生1,000円(限定数。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い)。チケットのお求め、お問合わせは同センター(電話06-6363-7999 土・日・祝を除く平日10時~17時)。

【プログラム】

シベリウス:交響詩「フィンランディア」作品26

5つの小品「樹の組曲」作品75

5つの小品「花の組曲」作品85

ほか(予定)

父譲りの「ライフワーク」

W Kikuo
atanabe

生誕150年の節目に

「フィンランドは北国で冬と夏の差がとても激しいですから、長い冬はずっと真っ暗で、夏はずっと明るい。ですから、夏への憧れが日本よりも遥かに強いんです。それは音楽にもよく表れていますね」と渡邊規久雄は穏やかな微笑みと共に語る。「シベリウスにも夏への讃歌といった印象を与える曲が数々あります。彼は1957年まで生きていましたから、現代的な曲なのかな？と思われるかも知れませんが、全然そんなことはなく、古風で聴きやすい曲ばかりです」

今年はシベリウス生誕150周年。記念の年とあって、交響曲やヴァイオリン協奏曲などオーケストラ作品は常にも増して演奏機会が多いけれど、ピアノ曲を聴けるのは貴重な機会。というのも、シベリウスはピアノのために大規模なソナタや協奏曲を残さなかったためか、手がけるピアニストが限られているのだ。

「シベリウスにはピアノのための大曲が全然ないんです。森の中を歩いているときにちょっとスケッチした、というような感じの曲が多いですよ。ですから、良い曲がたくさんあるのになかなか演奏されない。最近まで楽譜の入手も簡単ではなかったのも影響しています」

身近だった北欧音楽

そもそも渡邊規久雄とシベリウスのご縁は浅からず…彼の祖母はフィンランド人声楽家。その息子（規久雄氏の父）が、故・渡邊暁雄。日本とフィンランド両国の血を引く指揮者として、数々の北欧音楽を日本に紹介した功労者だ。なかでもシベリウスは得意中の得意、自ら創設した日本フィルハーモニー交響楽団と共にシベリウス交響曲全集録音を2度も完成させ、後に日本シベリウス協会も設立。生涯を通してこの作曲家の魅力——抒情の深奥、研ぎ澄まされた孤高の境地を広く知らしめた。

「子供の頃から日本フィルの練習場に連れていってもらったから、シベリウスの交響曲などどれも聴き覚えがあるような環境でした。ただ、父の存命中にシベリウスについて習ったことはほとんどありません。私自身がまだ彼のピアノ曲の魅力に気づいていなかったこともありますが、もっと訊いておけばよかったなあと今にして思いますね」

しかし、幼い頃からこの作曲家の音宇宙と親しんでいた渡邊規久雄が、1976年のデビュー以降、シベリウス作品も重要なレパートリーとしたのは自然な流れだったろう。国内外で精力的な演奏を繰り広げるなか、オール・シベリウス・プログラムによるリサイタルも数々開催。ライブ録音によるシベリウス・ピアノ作品集はこれまでCDで3タイトル発売され、シベリウス・ヴァイオリン作品集（共演：佐藤まどか）も2タイトル、いずれも好評を博してきた。

技巧より澄んだ響きへ

今夏、ザ・フェニックスホールで開催されるリサイタルでは、シベリウス愛好家にも深く愛される名曲・重要作の数々が披露する。《樹の組曲》作品75と《花の組曲》作品85、フィンランドの自然に寄せる情感を美しく響かせる2つの組曲は、シベリウスの独奏曲でも最も広く知られるが、意外に「実はまだリサイタルで弾いたことがないんですよ!」と渡邊。今回の大阪公演が名匠の貴重な初披露だ。

「今回取り上げる中期から後期にかけての作品は、タイトルこそついていても、標題音楽というより絶対音楽に近いと思います。若い頃の小品には、ヴィルトゥオーソ的なところもあるんですが、歳を重ねてそういうところがどんどん無くなり、純粋に〈音楽だけ〉になっていく。そこに本当のシベリウスのようなものが表れているように感じます。交響詩《トゥオネラの白鳥》で有名なイングリッシュホルンの長く美しい独奏がありますね、ああいう歌に似たものがピアノ曲にもずいぶん出てくるのです。金管楽器のファンファーレ的な響きではなくて、木管楽器が和音を重ねながら歌っているような…。ですから、ピアノからそのままオーケストラに直しても曲になるようにも思えますし、どちらかというと声楽の音楽会のような印象を受けるかも知れません」

ピアノ曲で有名な他の作曲家とはひと味もふた味も異なる、シベリウスならではのピアノ書法の豊かさだ。磨き抜かれた交響曲第6番を書いていた頃の〈5つのロマンティックな小品〉作品101（これまた珠玉の小品集!）でも、創作後期の心境を味わえる。

「たとえばショパンやリストのピアノ曲は、楽器の良さを完全に発揮するように書かれています。が、シベリウスのピアノ曲にはそういう効果を

狙ったところがない。ところが、楽器の一番低い音から高音までとても広い音域を使って書いている。だから弾きにくい(笑)」

派手な技巧をひけらかすことなく、しかし、豊かな技巧を澄んで深い独特の響きへ結晶させるように…。シベリウスを熟知する名手にしか生み得ない音世界だ。

オーケストラの有名曲も

「彼のピアノ曲で一番大切なのは、今回後半に弾く〈3つのソナチネ〉作品67だろうと思います。が、彼が絶対音楽にかけた思いがよく表れています。タイトルからは学習用の曲というイメージがあるかも知れませんが、全然そんなことはないんです。ピアニスティックな華やかさがないので、どこが難しいのかと思われるかも知れませんが(笑)。——シベリウスはヴァイオリニストになろうとした時期があったくらいヴァイオリンの上手い人でしたし、ピアノも相当弾けたと思います。昔、シベリウスがピアノを弾いている映像を観せていただいたことがあるんですが、無音ながら手が映っているので、彼はとても弾きにくい部分もかなり良く弾いているのが良く分かりましたね」

森の散歩道でふと生まれたようにきこえる曲にも、卓抜な精緻が磨き込まれているのだ。さらに、リサイタルの最後では、オーケストラ曲として有名な《悲しきワルツ》と交響詩《フィンランディア》のダイナミックな編曲も。

「《フィンランディア》はシベリウスがピアノのために書いた楽譜の中では最も効果的なもの。音型などピアノに合わせて原曲から多少は変えられているんですが、ここにも彼の精神的な深さが表されています」

力強さと深さ、繊細さと優しさ——舞台と客席も近く親密なザ・フェニックスホールの空間で聴くにふさわしい。

「このホールでは妻の寺田悦子と2台ピアノで弾かせていただくことはあるのですが、ソロのリサイタルは今回が初めてです」とピアニストも楽しみにしているところ。真夏のシベリウス、魂の孤高と抒情を美しく極めた音楽が、きっと余韻まで美しく響くことだろう。



5月29日(金)
10:00 受付開始
ザ・フェニックスホール
友の会優先予約

6月1日(月)
10:00 受付開始
イーフェニックス
E-PHX優先予約

6月2日(火)
10:00
一般発売

インターネット予約、ご来店による
お申込みは6月3日(水)10:00から!

■注目アーティストシリーズ63

2015年11月14日(土)

16:00開演 指定席

一般¥3,000(友の会価格¥2,700)

学生¥1,000(限定数)

出演 セルゲイ・カスプロフ(ピアノ)

鬼才アファナシエフが激賞。モスクワ発、21世紀のヴィルトゥオーゾ。
セルゲイ・カスプロフ ピアノリサイタル

曲目 スカルラッティ:ソナタ 嬰へ長調 K319、口短調 K87、木長調 K162、へ短調 K17

ラフマニノフ:絵画的練習曲集作品33より 第2曲 八長調、第5曲 二短調、第6曲 変木短調

ラフマニノフ:ソナタ 第2番 変口短調 作品36

ストラヴィンスキー:「ペトルーシュカ」からの3楽章

ムソルグスキー:組曲「展覧会の絵」

モスクワ生まれ、パリでも研さん。ホロヴィッツ、マリア・ユーディナ、N・ルービンシュタイン、スクリャービン、そしてリヒテル。「ロシア・ピアノズム」の大御所の名を冠した数々のコンクールで優れた成績を収め、いま欧・ロの楽壇でひととき注目を集める俊英。演奏は「悪魔的」ともいえる技巧に裏打ちされた即興性が特徴ながら、閃きと抑制、理性と狂気、また覚醒と陶醉といった相反するメンタリティが混然一体となって溢れ、鮮烈な印象を残す。この秋一番、旋風のステージ。



コンクール受賞歴:

2005年 ホロヴィッツ記念国際ピアノコンクール
(キエフ)特別賞

2006年 マリア・ユーディナ国際ピアノコンクール
(サンクトペテルブルク)最高位

2006年 ニコライ・ルービンシュタイン国際ピアノコンクール
(パリ)第1位

2007年 スクリャービン国際ピアノコンクール(パリ)第1位

2008年 スヴァトスラフ・リヒテル国際コンクール
(モスクワ)モスクワ市政府賞

セルゲイ・カスプロフ (Sergey Kasprov/ピアノ)

1979年モスクワ生まれ。モスクワ音楽院でピアノと古楽器をアレクセイ・リュビモフ氏、オルガンをアレクセイ・パンシン氏に師事し卒業。その後、パリのスコラ・カントルム音楽院でイゴール・ラスコフのもとで研鑽を積む。カスプロフは、主にロシア、フランス、ベルギー、ドイツ、ポーランドを中心に演奏活動を行っており、世界的に有名な音楽祭にも招待されている。2000年シュロスグラフェネック(オーストリア)で開催された「ロシアの季節」、2001年には同国でザンクトガレン・シュタイアーマルク、同年、ウィーンのメートリンクでシェーンベルク・フェスティバルに登場。その後も、2004年にはコンテンボラー音楽のフェスティバルである「モスコフスカヤ・オーセン」、2006年にモスクワの「アンティカルウム」、フランスのミュージカル・インターナショナル・ギル・デュランス、ルール・ピアノ・フェスティヴァル2008などにも出演。さらに、2009年には、ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノ音楽祭(フランス)、クララ音楽祭(ベルギー)、「ショパンと彼のヨーロッパ」国際音楽祭(ワルシャワ)、翌2010年には、シテ・ドゥ・ラ・ミュージック(パリ)でエマニュエル・クリヴィヌ指揮のもと、リストのピアノ協奏曲第2番を演奏し、大絶賛される。

録音については、「ソナタ&トランスクリプションズ」(アトクラシック、モスクワ)を発表。収録曲は、スカルラッティの「ソナタ」、ハイドンの「ソナタ第31番」、スクリャービン「2つの詩曲 作品69」、サン＝サーンス作曲リスト/ホロヴィッツ編「死の舞踏」、そしてリスト作曲ブゾーニ/ホロヴィッツ編の「メフィスト・ワルツ」である。

また、これまでにサンクトペテルブルク交響楽団、モスクワ国立交響楽団など多くの著名なオーケストラと共演を果たしている。

ホール主催・共催・協賛公演チケットのお申込み方法

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

■ザ・フェニックスホール友の会優先予約

- ・ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
- ・主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
- ・友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。

■E-PHX(イーフェニックス)優先予約

- ・E-PHX(イーフェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
- ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
- ・事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話での登録はできません。

■一般発売

- ・一般発売日は、電話予約のみの申込みとなります。
- ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

http://phoenixhall.jp/

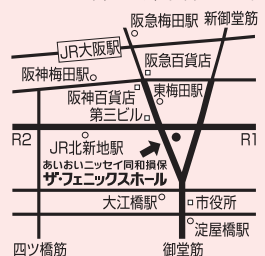
チケットセンターのページからお申込みください

■インターネット予約(主催公演のみ)

- ・ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
- ・チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますが電話でお問合せください。
- ・ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
- ・学生券のインターネットによるご予約は受付いたしておりません。
- ・チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

直接のご来店による お申込み

- ・ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物5階、エレベーターを降りて廊下右手です。



チケットお申込み後のお受け渡し方法

下記①または②のどちらかとなります。

- ①お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。
営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00です。
- ②先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351

加入者名 ザ・フェニックスホール

■アンサンブル・アラ・カルト58

2015年12月1日(火)

19:00開演 指定席

一般¥4,500(友の会価格¥4,050)

学生¥1,500(限定数)

出演 ヒェン・ハレヴィ(クラリネット)
今井信子(ヴィオラ)
キム・ソヌク(ピアノ)

まろやか音色でブラームス聴き比べ。精鋭ピアニストを交え古今の三重奏も。

今井信子presents

ロマンティック・トリオ〜クラリネット・ヴィオラ&ピアノ

曲目 モーツァルト:クラリネット三重奏曲 変ホ長調 K498(ケーゲルシュタット・トリオ)

ブラームス:クラリネット・ソナタ 第1番 へ短調 作品120-1、ヴィオラ・ソナタ 第2番 変ホ長調 作品120-2

シューマン:おとぎ話 作品132、クルターグ:R・シューマンへのオマージュ

ハレヴィさんは奏者としても、先生としても非常に高い評価を受けている方で、ドイツ系のクラリネット奏者ではない彼が、トロッシンゲン音大の教授になったときは、音楽仲間の間で大きな話題となりました。このことから、国ごとのスタイルといったものを越えて彼がいかに優れた音楽家であるか伺い知ることができます。キムさんは、ホールのお客様にも既にお馴染みですが、彼の軽やかなピアノがまた聴けるとすると、今から心が躍ります。今回が初めてとなるこの3人の組み合わせ、どのような音楽が生まれるか、私自身も非常に楽しみにしています。

今井信子(ヴィオラ奏者、ホール音楽アドバイザー)



ヒェン・ハレヴィ (Chen Halevi/クラリネット)

ヒェン・ハレヴィは現在、最も多才なクラリネット奏者の一人と評されており、ソリスト、また室内楽奏者として高い評価を得ている。古楽から現代音楽まで、驚異的に幅広いレパートリーを持つほか、新しい奏法にも積極的に取り組むなど、クラリネット界のパイオニアとして、21世紀のクラリネットのあるべき姿を常に模索している。10代でズービン・メータ指揮イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団と共演デビュー。以来ニューヨーク・フィル、東京交響楽団、モスクワ・ヴィルトゥオーゾ、イェルサレム放送管弦楽団、ライプツィヒの中部ドイツ放送交響楽団、ハンブルクの北ドイツ放送交響楽団、バイエルン放送交響楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団などアメリカ、ヨーロッパ、日本などの主要オーケストラと共演を重ねている。室内楽にも積極的に取り組んでおり、数々の著名演奏家、カルテットと共演しているほか、マルボロ、ラヴィニア、サンタ・フェ、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン、コルマール、ダヴォス、ローラントシュック、オールドバラ、リーセール、ヴェルビエ、パースなど世界各地の音楽祭に出演している。現代音楽の分野でも国際的に活躍しており、ハレヴィと作曲家との強い絆から、これまでに数多くの作品を初演している。最近の活動のハイライトとしてアラン・ギルバート指揮ニューヨーク・フィルとのマグナス・リンドベルグ作曲「Kraft」の米国初演、ブラッド・ラブマン指揮バイエルン放送交響楽団とのスヴェン・インゴ・コッホ作曲「Doppelgänger」の世界初演などが挙げられる。様々な作曲家との長年にわたる親交から、献呈された作品も多い。ハレヴィの現代音楽への取り組みはこれらの活動に留まらず、2007年には委嘱や録音、演奏を通じて現代作曲家を支援することを目的とするClaRecordsを設立した。同時にClaRecordsは、音楽以外の芸術分野との交流も目指している。独トロッシンゲン音楽大学教授。



今井信子(いまい・のぶこ/ヴィオラ)

1943年東京生まれ。桐朋学園大学を経て米国のイェール大学、ジュリアード音楽院に学び67年ミュンヘン、68年ジュネーヴの両国際コンクールで最高位入賞。以後、北イリノイ大学、英マンチェスター音楽院などの教員を務めながら演奏活動を広げ、89年秋、武満徹がフランス革命200年記念で委嘱されたヴィオラとオーケストラのための「ア・ストリング・アROUND・オータム」をパリで初演、小澤征爾指揮サイトウ・キネン・オーケストラとの共演で録音したCDがベストセラーとなった。87年の開館時からカザルス・ホールの音楽アドバイザー、90年からは同ホールのレジデント・カルテット(カザルスホール・カルテット)のメンバーとなった。同ホールでは91年からリサイタルをはじめ、翌年からは「ヴィオラという楽器の可能性を追求し、音楽性と素晴らしさを広めたい」との思いから「カザルス・ホール・ヴィオラ・スペース」と題したヴィオラのための音楽祭へと発展した。この事業ではヴィオラ奏者育成のためにマスタークラスを開催している。95年はヒンデミットの生誕100年を記念、東京、ロンドン、ニューヨークで開かれた国際ヴィオラ・フェスティバルの音楽監督を務めた。97年第1回淡路島しづかホール・ヴィオラ・コンクールの審査委員長。2003年ミケランジェロ弦楽四重奏団結成。2009年東京国際ヴィオラコンクール審査委員長。アムステルダム音楽院、クロンベルク・アカデミー、上野学園大学などで教授を務める。2015年10月からはスペインのマドリッドにあるソフィア王妃高等音楽院の教授に就任する。「エイボン女性芸術賞」、「芸術選奨文部大臣賞」、「京都音楽賞」、「モビル音楽賞」、「毎日芸術賞」、「サントリー音楽賞」を受賞。03年紫綬褒章、13年旭日小綬章受章。欧米を拠点にソリスト、室内楽奏者、教育者として国際的に活躍しているヴィオラの第一人者。ザ・フェニックスホールでは1997年5月、主催公演にクラリネット・トリオで出演(共演・フリードリヒ・ヴィルヘルム・シュマア=ピアノ、エルマー・シュミット=クラリネット)。また、自らが企画に携わるヴィオラ振興のための音楽事業「ヴィオラスペース」(主催・テレビマンユニオン)が2005年から毎春、ザ・フェニックスホールで開催されている。11年4月からあいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール音楽アドバイザー。



キム・ソヌク (Sunwook Kim/ピアノ)

1988年ソウル生まれ。2006年権威あるリーズ国際ピアノ・コンクールの40年の歴史上最年少、またアジア人として初めて優勝し世界的な注目を集める。彼がファイナルで演奏したブラームスの協奏曲第1番は満場の聴衆から喝采を浴びた。これまでロンドン響(ジョン・エリオット・ガーディナー指揮)、フィルハーモニア管(ウラディーミル・アシュケナージ指揮)、ロンドン・フィル(ヴァシリー・シナイスキー指揮)、BBCフィル(ジャン・ドレ・ノセグ指揮)、ロイヤル・スコティッシュ管、ブダペスト祝祭管(イヴァン・フィッシャー指揮)、ベルリン放送響(ウラディーミル・ユロフスキ指揮)、コンセルトヘボウ管(チョン・ミュンファン指揮)、フランス国立放送フィル(チョン・ミュンファン指揮)、ライプツィヒの中部ドイツ放送響(デヴィッド・アフカム指揮)、NHK響、ソウル・フィルなどと共演。リサイタルでも既にロンドンのウィグモア・ホール、パリのサル・プレイエル、ベルリンのフィルハーモニー、東京の紀尾井ホールなどへデビュー、ソウルのLGアーツ・センターでのベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲シリーズはいずれも絶賛されている。またベルリン・フィルのメンバーとのベルリン、パリでのブラームス・プロジェクト、ヴァイオリンのヴェロニカ・エーベルレとのデュオなど室内楽にも意欲的である。2013年春、名門ドイツ・グラモフォンからチョン・ミュンファン指揮ソウル・フィルとのベートーヴェンのピアノ協奏曲第5番「皇帝」がリリースされた。

聴いて育てる未来の名門〜弦楽四重奏の教育・啓発事業

今年も開かれる 大阪・兵庫・京都・愛知・東京から8グループ

ザ・フェニックスホールは、弦楽四重奏に携わる若い演奏家の育成と併せて聴衆の拡大を図る教育啓発プログラム「Phoenix OSAQA (Open String Academy for Quartet Artists)」を、2015年も3月21日(土)から3日間、ザ・フェニックスホールとリハーサル室などを会場に開催しました。

この事業では、1994年結成でベートーヴェンの作品演奏をライフワークと位置づけ取り組んでいる国内ナランバーワンの弦楽四重奏団、ジャパン・ストリング・クワルテット(JSQ)が指導にあたりました。指導を受けたのは、大阪・兵庫・京都・愛知・東京から8グループ。演奏のコツや作品解



レポート
Phoenix
OSAQA
2015

釈について、じっくり学びました。

指導の題材は、JSQが最も得意とする、ベートーヴェンの弦楽四重奏曲。選曲は随意で、今年も、初期作品として知られる「第4番 へ短調 作品18-4」から中期の「第11番 へ短調 作品95『セリオソ』」、後期の「第16番 へ長調 作品135」など、さまざまな作品が並びました。指導の全てを吸収しようとする熱意と、真摯にアンサンブルに取り組む姿が記憶に残ります。そして最終日23日(月)には、学習の成果を示す修了コンサートを行いました。

ザ・フェニックスホールは、来年もこの事業を、3月19日(土)から21日(月)の間、開催します。どうぞお楽しみに。また直前18日(金)は講師JSQの方々によるコンサートを開催します。東西の若手弦楽器奏者が集い、公開の場でこうした演奏を披露する機会は関西では極めて珍しい営み。本事業が継続し、ますます魅力ある事業になるよう努力したいと思います。来年もぜひご参加いただき、応援をお願いいたします。

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内

ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

発売中

協賛
公演

三浦一馬クインテット《ガーシュウィン&ピアソラ》

2015年6月13日(土) 18:00開演 指定席 一般前売¥5,800(友の会価格¥5,220) 一般当日¥6,300(友の会価格¥5,670)

出演 三浦一馬(バンドネオン)、荒井英治(ヴァイオリン)、
山田武彦(ピアノ)、大坪純平(ギター)、
高橋洋太(コントラバス)、石川智(パーカッション)
曲目 ガーシュウィン:ス・ワングフル、誰か私を見守って、
サマータイム、私の彼氏、魅惑のリズム、
ラブソディ・イン・ブルー、「ガール・クレイジー」序曲
ピアソラ:デカリシモ、ブエノスアイレスの冬、
ブエノスアイレスの夏、天使へのイントロダクション、
天使のミロンガ、天使の死

若きバンドネオン界の開拓者、三浦一馬が、アメリカを代表する作曲家、ジョージ・ガーシュウィンのトリビュート・アルバムをリリースする。これまではあくまで「タンゴ」を主軸にした作品を発表してきた彼が、今回はじめて、アストル・ピアソラと並んで深く敬愛するガーシュウィン作品を取り上げ、ガーシュウィンが創り上げた「ジャズとクラシックの融合」に挑んでいる。このアルバムを携えた今回のコンサートでは、普段のクラシック音楽の枠にとらわれない、開かれた会場で2大巨匠の作品に挑む。1部は三浦流のアレンジによるガーシュウィン、2部はピアソラが後期に発案した五重奏形式を三浦のスタイルで再現する。

主催 テレビマンユニオン



発売中

協賛
公演

王の舞曲V〜バッハ・ヘンデル生誕330年、ルイ14世没後300年記念〜

2015年7月2日(木) 19:00開演 自由席 一般前売・当日 ¥3,000(友の会価格¥2,700)

主催 サロン・ド・サーシャン

出演 樋口裕子、今野典子、宮口加奈(以上コートダンス)、
横山知彦(バロックヴァイオリン)、中西歩(ヴィオラ・ダ・ガンバ)、
吉竹百合子(チェンバロ)/以上アンサンブル・トリオス、
橋詰智章(リコーダー)、緋田芳江(ソプラノ)、小川悟史(パーカッション)
曲目 J・S・バッハ:「管弦楽組曲I」よりクーラント
フルートソナタ 第2番 変ホ長調 BWV1031より「シチリアーノ」
ヘンデル:歌劇「ジュリアス・シーザー」より「つらい運命に涙はあふれ」
リュリ:歌劇「パエトーン」より「シャコンヌ」
オルティス、コレッリ、マレ他のフォリア

サロン・ド・サーシャン主催のバロック音楽&バロックダンスのシリーズ「王の舞曲」の第5回。第1部は今年生誕330年を迎えたバッハ、ヘンデルの作品でドイツ・イギリス、第2部は芸術に大きな影響を与えたフランス王ルイ14世没後300年を記念して、リュリ、カンブラ、サンズ他の作品でフランス・スペインの音楽と歌とダンスをお楽しみ頂く贅沢な企画。華麗な衣装の数々と共に至福のひと時を!



発売中

協賛
公演

Quartet Exploce (クアルテット・エクスプローチェ) Tour 2015

2015年8月5日(水) 19:00開演 自由席
一般前売¥2,500(友の会価格¥2,250) 一般当日¥3,000(友の会価格¥2,700) 学生前売¥1,500 学生当日¥2,000

主催 Quartet Exploce

出演 辻本玲、市寛也、森山涼介、高木慶太(以上チェロ)
曲目 J・S・バッハ:シャコンヌ
ストラヴィンスキー:イタリア組曲
ポツパー:演奏会用ポロネーズ
モリコーネ:ニューシネマ・パラダイスメドレー
ピアソラ:悪魔のロマンス 他

同年代の若手チェリストが四人集まり結成した「クアルテット・エクスプローチェ」。今回が2回目となるツアーのメインはストラヴィンスキーのイタリア組曲。チェロカルテットで弾かれることは珍しく、4本のチェロだからこそ表現できる曲の魅力を乞うご期待。昨年好評だったバッハのシャコンヌの再演、CM等で一度は耳にしたことがあるニューシネマ・パラダイス、思わず体を動かしたくなるピアソラのタンゴなど、若者の溢れる情熱がぶつかって生まれる音の饗宴をどうぞお楽しみください。



5/29(金)
発売

協賛
公演

ロベルタ・マメリ ソング・コレクション

主催 ダウランド アンド カンパニイ

2015年9月29日(火) 19:00開演 指定席
一般前売¥4,000(友の会価格¥3,600) 一般当日¥4,500(友の会価格¥4,050) ※友の会割引は1会員2枚まで。
学生¥2,000(限定数)

出演 ロベルタ・マメリ(ソプラノ)、つのだたかし(ギター)
曲目 ジュリアーニ:別れ
ソル:私の涙、女とギターのは
グラナドス:悲しみのマハ
ヴィラ=ロボス:ブラジル風バッハ第5番より アリア、帆船
ピアソラ:アヴェ・マリア、オブリヴィオン 他

ヨーロッパでは各地のオペラハウス、音楽祭で活躍し、日本でもバロックの歌姫として、ここ数年、飛躍的にファンを増やしてきたイタリアのソプラノ、ロベルタ・マメリ。彼女の新しい魅力を見せる歌曲プログラム。ギター伴奏でリュート奏者のつのだたかしが共演。力強さと繊細さ、軽みと情感表現の深さ、完璧なヴォイスコントロール。全てをあわせもつマメリの歌声であの名曲を。



ザ・フェニックスホール友の会会員様限定 〜2015年度ティータイムコンサート通し券特典 当選者発表!〜

2015年度ティータイムコンサートの通し券を2015年2月27日までに、お求め頂いた会員様の中から抽選で5組10名様に、本年度主催公演(ホール指定)のご招待券をプレゼントする限定特典。その当選者は以下の方々です。おめでとうございます!6月26日はティータイムコンサートシリーズ第2公演、伊東信宏プロデュース「カニユカのベートーヴェン ―3つのチェロソナタ」を開催いたします。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

■プレゼント当選者■

吹田市/青山様

相楽郡/井上様

守口市/米盛様

岸和田市/山根様

大阪市/堀様

「アキラ」との思い出 7月のパーカッション・トゥデイ<中村功と仲間たち>公演で 作曲家・宮川彬良さんと共演 打楽器奏者・中村功さんに聴く

作曲、編曲、ピアノ演奏。指揮や軽妙な語りで音楽の楽しさを伝え続けるミュージシャン、宮川彬良さん。「Osaka Shion Wind Orchestra (旧・大阪市音楽団)」や「アンサンブル・ベガ」での活動を通じ関西でもお馴染みの「才人」です。そんな宮川さんがこの夏、ザ・フェニックスホールに登場します。大阪出身の世界的打楽器奏者、中村功さんのプロデュースで7月末に開催されるシリーズ公演「パーカッション・トゥデイ<中村功と仲間たち>」最終回。2人は1980年代に東京藝大で学び、東京のポップス音楽シーンで協働を重ねた仲間。現代音楽の名手として日欧で評価の高い中村さんと、お茶の間の人気者・宮川さんの接点は。中村さんに聴いた。

(あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール 谷本 裕)

「パーカッション・トゥデイ<中村功と仲間たちvol.5>『だんじり、サンバ、宮川彬良』」公演は7月31日(金)午後7時開演。指定席。入場料4,000円(友の会3,600円)。学生1,000円(限定数。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い)。チケットのお求め、お問い合わせは同センター(電話06・6363・7999 土・日・祝を除く平日10時～17時)。

アキラは僕と同じ東京藝大の出身で、2年下。オヤジさんが『宇宙戦艦ヤマト』で有名な作曲家宮川泰さん。アキラ自身、学生時代からポップスの仕事をしていたんです

が、僕は卒業するまで彼のことは知りませんでした。僕は4年の春、父を亡くし、自

活しなくてはならなくなった。「芸術としての打楽器音楽」から離れ、当時、売れっ子歌手の岩崎宏美さんのバックでパーカッションを叩き全国ツアーしたり、スタジオミュージシャンとして映画音楽やCM音楽の録音に加わったりするようになりました。

1981年、打楽器科を卒業後も、そんな仕事が次第に増え、劇団四季が日生劇場で初めて開いた生オーケストラ版バーンスタインの「ウェストサイド物語」や、東京ディズニーランドでのこけら落としのミュージカルでも演奏するようになりました。クラシックの教育を受け、当時はブラジルのサンバにハマっていてラテンリズムにも強い。「硬軟両様」のプレーヤーとして重宝がられたようです。彼と出会ったのは、ちょうどその頃。荻野目慶子さん主演のミュージカルの仕事に行ったら、音楽を担当していたのがアキラでした。

当時の僕の音楽性は、どちらかというと泥臭いものが好き。でもアキラは違った。アメリカン

ポップスの薫りを身に着け、洗練されたセンスを持っていました。ある時、彼が(アメリカの人気兄妹デュオ)カーペンターズのカセットテープを

洗練と泥臭さ 併せ呑む才人



年月を経ても、友情は変わらず。
今年1月、旧交を温めた中村功さん(右)と宮川彬良さん=大阪市内

くれた。ヒット曲「イエスタデイ・ワンス・モア」が録音されていて、中のハイハット(ドラムセットで用いるシンバル。上下2枚セット。ペダルで鳴らす)を聴けという。裏打ちリズムの絶妙な間。微かだけど、とっても印象的な音色。それまで触れたことのない、語りかけるようにソフトなパーカッションでした。「イサオちゃん、こんな音出せたら良いネ」。ポップスの感覚と奥深い世界を教えてくれた。後輩ながら尊敬するようになりました。

それから随分、一緒に仕事をしました。アキラは、新人歌手のデモ音源の編曲や制作を手掛けていた。彼のピアノと僕のドラムやパーカッション、ギターやベースの仲間と作り上げていくんです。みな、昼間は忙しい。セッションは夜中。明け方までスタジオに込もってね。でも若かったし、何より楽しかった。単に生活のための仕事というより、心が通い一緒に音楽を作る素晴らしい仲間でした。アキラは作曲科に在籍していて、きちんとした勉強をしながら、芸術的な現代音

楽の世界には入り込まず、ワールドワイドな音楽を自分の中に取り込み、多くの人々が楽しめる音楽活動としてプロデュースする道に進み始めたんだと思います。

僕はその後、夢を抱いてドイツに留学。そのままドイツを拠点に演奏と教育に携わるようになった。アキラとはふつつり連絡が途絶え、4半世紀も経った。ところが7、8年前だったか、僕が大阪に戻ってきた際、彼が大阪フィルと続けていたポップスコンサートが折良く有り、出掛けました。若い時代からの、シンフォニックなサウンドへの志向はそのまま。クラシック、ポピュラー、映画や舞台の音楽などが見事に一体化したステージに触れ、「ああ、あのアキラの世界や!」と感無量でした。打ち上げで久々に呑み、「また一緒にやろう」と約束したんです。

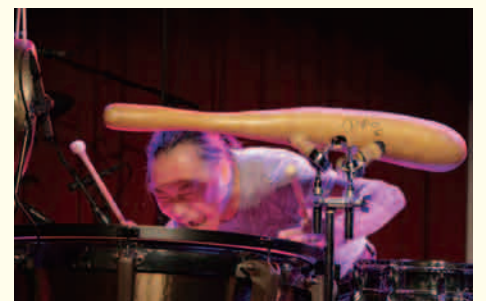
今回、彼にピアノと打楽器のための新作を委嘱しました。でも直前に仕上げなくてはならないミュージカルの作曲があつて極端に忙しいようで、どんな作品になるか、今は全然、分かりません。おそらく土俗と洗練が融合する素敵な作品だと思います。公演では阿倍野王子神社のだんじり囃子や、東京在住時代の仲間とのサンバ演奏があり、クライマックスは正に祝祭的な、心浮き立つ公演になることでしょう。僕たち2人の、楽しいトークにもご期待ください。(談)



©M.Okubo

宮川彬良(みやがわ・あきさ/ピアノ・作曲)

東京藝術大学在学中から劇団四季、東京ディズニーランドなどのショー音楽を担当。その後、数多くのミュージカルなどを手掛け、舞台音楽家として活躍。代表作に「ONE MAN'S DREAM」、「マッケンサンバII」、「身毒丸」、「ザ・ヒットパレード」など。全国各地で演奏もっており、自身で作曲、編曲、指揮、ピアノ演奏、解説も交え進める公演に定評がある。2003-10年NHK Eテレ「クインテット」、09-10年NHK-BS2「どれみふぁワンダーランド」、11-12年NHK BSプレミアム「宮川彬良のショウタイム」などテレビでも活躍。12年からアニメ「宇宙戦艦ヤマト2199」の音楽を手掛けている。



中村功(なかむら・いさお/打楽器ほか)

1981年東京藝術大学、89年フライブルク国立音楽大学大学院、及びソリスト科卒業。86年ダラムシュタット国際現代音楽夏期講習会クラニッチ・シュタイナー音楽賞、92年度青山音楽賞特別賞、04年佐治敬三賞受賞。シュトゥックハウゼン、ケージら著名作曲家や、ケルン放送響など各地の名門楽団と共演。ベルリン音楽週間、ザルツブルク音楽祭などの音楽祭で招待演奏を重ねる。95年「Duo Konflikt」、06年「Isao Nakamura Ensemble」、10年「中村功と仲間たち」を結成。秋吉台国際現代音楽セミナー、ダラムシュタット国際現代音楽夏期講習会で常任講師歴任。92年よりカールスルーエ国立音楽大学教授。京都市立芸術大学客員教授。YAMAHAアーティスト。



二十歳を迎えるザ・フェニックスホール

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールは本年2015年度、開設20年の節目を迎えます。ホールは1995年、当社の前身会社の一つ、旧同和火災海上保険株式会社の創立50周年にあたり、開設されました。これら落としては同年5月13日土曜の「室内楽の祭典」。「フェニックス・エヴォリューション」という委嘱新作の初演をはじめ、ベートーヴェンやドヴォルザークの室内楽曲によって、新たな舞台が発売しました。以来20年、私たちは301の客席に即した様々な音楽を、内外の優れたアーティストによって発信し続けています。以来、大阪・関西はもとより日本の、またアジアの、そして世界の「室内楽の殿堂」として、多くの人々に愛していただける舞台を目指してきました。節目の時に臨んで、私たちホールの歴史を振り返ると共に、未来に向け「室内楽の殿堂」として引き続き「皆様から愛される舞台」を目指してまいる所存です。ここでは歩みの一端を、ホール独自の美しいフライヤーと共にご紹介致します。(文中敬称略)



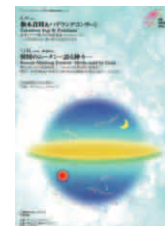
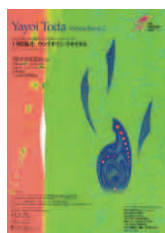
Visual Concerts Selection 秀逸フライヤーでたどる20年

…もう20年。ザ・フェニックスホールの歴史とともに歩んだ日々。
制作物のアートディレクションをお受けしたのが、まるで昨日のことのようです。
ポスターをはじめフライヤー類を見返し、あの時・その時を支えた人力の歴史にも改めて思いを馳せます。
楽曲や作曲家、コンサートの内容をヒアリング。抽象的なイメージをビジュアル化していく作業。
音楽に精通していない私には難しい反面、大変好奇心をそそられるものでした。
時代が移り変わり、求められるものが変わっても音楽の魂は不変。
『ザ・フェニックスホール』という唯一無二の真真空間ででありながら、変幻自在の自由空間で創造される音霊。
そのスピリットは、多くの人にインスピレーションを与え、人生にも影響を与えていくことでしょう。
ザ・フェニックスホールのファンの一員として、これからも不死鳥の歴史を見届けていきたいと思ひます。
20周年記念、心からおめでとうございます。

松井 桂三



アーティスト。大阪芸術大学短期大学部デザイン美術学科長。米国アップル社Macのパッケージ基本デザイン構築に携わる。政府広報(全庁)統一シンボルマーク制作。ロート製薬『肌研ハダラボ』のシンボルロゴ、パッケージ群は空前のヒット商品に。14年ロシア国立エルミタージュ美術館250周年記念ポスター4作品を依頼制作。



◀1995年、ザ・フェニックスホールが手掛けたのは米国の名門ガールネリ弦楽四重奏団やエリーザベト王妃国際音楽コンクールを制覇した戸田弥生のヴァイオリンリサイタル、フルート金昌国とハーブ篠崎史子のデュオといった内外名手の室内楽でした。企画は音楽監督・江戸京子。今日に至る「室内楽の殿堂」の始動です。翌年の開館1周年公演ではオーギュスタン・デュメイ (Vn) とマリオ・ジョアン・ピリス (Pf) のデュオ、日本の大御所・園田高弘 (Pf) がお目見え。
▼現在はベルリン・フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスターを務める榎本大進 (Vn) も登場しました。



▲1997年9月、ギドン・クレーメル(Vn)が出演した公演は、翌98年のABC国際音楽賞を受賞しました。この公演では、ホールはの舞台背後の壁をアンコール時に上げることで、彼らが奏でたピアノの音楽と大阪の夜景のきらめきとが絶妙の効果をもたらしました。当時、支配人だった大矢寛治によると、クレーメルは「あの窓(註:原文のまま)を開くことによって、音楽はホールにいる300人だけのものではなく、世界に開かれた」と語ったのです。



▲ホールは2002年度から3年、計8回、レクチャーコンサートシリーズ「ピアノはいつピアノになったか?」を行いました。企画・構成は、伊東信宏大阪教育大学助教授(音楽学。現・大阪大学教授)。研究者や演奏家、作曲家を講師にバッハやハイデン、シューベルト、ショパン、リストといった作曲家の作品を当時の楽器で演奏、その音色や響きによって新たな音楽の姿を見い出そうと試みました。クリストフ・フォリ、ブレイエル、エーラーといった貴重な古楽器は主に、堺市のフォルテピアノヤマモトコレクションの協力を得ました。最終回は、ヤマハの自動演奏機能を持った最新のピアノも登場、未来の音楽を占うステージとなりました。伊東教授には現在、ホール音楽アドバイザーを務めて頂いています。



▲2005年は開館10年。神戸出身のジャズピアニスト小曽根真と父・実のデュオが登場しました。 公演企画を公募、選ばれた音楽家にホールを無料提供する「エヴォリューション・シリーズ」は開設以来の名物。選抜メンバーの公演もありました。

▲開設以来の人気シリーズが「ティータイムコンサート」。金曜午後2時、美味しい茶菓と共に上質の音楽を楽しめるプレミアムなマチネ。関西を代表する繁華街・梅田に立地する地の利も生かし、ステキな時間を楽しんで頂いています。



西洋音楽は「気取り」の文化？

—中野振一郎



Keizo Matsui

日本には素晴らしい演奏会場が増え、室内楽用のホールも出来て久しいように思います。こんなにも充実した環境に居ながら、個人的にはコンサートに行く機会が減ってしまいました。そんな中、今年の正月に大阪で楽しんだのがフォルクス・オーパーのニューイヤーコンサート。素敵であり、そして懐かしかった…実は私にとって、ウィーンのフォルクス・オーパーの初来日公演は、強烈な少年時代の想い出でもあります。1979年のこと。私はまだ高校1年生。演目はレハールの「メリー・ウィドウ」。会場は四ツ橋の厚生年金会館。一言で言えば衝撃。それまでに体験したことのない「ヨーロッパ」と出会った瞬間でもありました。両親がクラシック音楽を好んでいたこともあり、私も幼稚園の頃から、邦人、来日アーティスト問わず、クラシックのコンサートにはよく連れて行ってもらっていましたが…それらの印象をすべて覆すような威力・魅力がフォルクス・オーパーにはありました。

快活な序奏とともに幕が開けば、そこにあるのは20世紀初頭のヨーロッパ。レハールの少々毒気のある退廃的で甘美な音楽と共に、看板役者たちは愉快で果てなく美しいオペレッタの世界へと観客を優しく引きずりこんでゆきました。何より登場人物すべてが「絵になる」と言うのが印象的でした。少しセクシーで優雅なドレスをまとった貴婦人たちが、凛とした大礼服や燕尾服姿の殿方、彼らすべてが綺麗でした。こんなに耳にも目にもご馳走になる演し物があったとは！

簡単に「絵になる」と申しましたが、少し観念的な表現ですね。うまく言葉に出来ませんが、美しい歌手やスタイルの良い役者を集めれば可能になるというのではなく、古風な言い方ですが「日本人のあこがれた西洋人らしさ」とでも言う「空気」みた

いなものです。大袈裟なジェスチャーもしなければ、異常に厚かましい雰囲気もないし、濃厚なバタ臭さを感じさせない…むしろ華奢で繊細で小粋なムード。鱗背(いなせ)といったところでしょうか。ステージ全体には上品で甘い香りが漂っていました。そしてどことなく皆さん「気取った人たち」の集まりだった—そんなことを今でも鮮明に覚えています。

さて日本で「気取る」と言うときちょっと^{きざ}気障でネガティブな感じに受けとめる方も多いかもしれませんが、でもオペレッタのステージに代表されるように「気取り」は西洋文化の要。換言すれば自然で上手い気取り方が、ヨーロッパ文化を表現すると言っても過言ではないような気がします。高校生で「気取り」の文化に出会った私も、今では50歳を越えた演奏家。専門としてたどり着いたのが「18世紀フランス革命前の宮廷音楽」。これもまさに「気取り」の世界、いやその原型ともいえるものではないか…啓蒙専制君主の時代に一方で思想的変革を求めながら、他方では「それでも生き残るヨーロッパ人のDNA」は一味違った変革を目指していたのだろうな…そんなことを年始のコンサートを聞きながらしみじみ思いつつ、自分の表現の立ち位置を考え直していました。

時折、必死で努力した「自分」を披露するような音大生の渾身の演奏に出くわすことがあります。これはこれで若くて魅力的ではあるのですが、もう一味、彼らの原点を感じ取れるエッセンスを加えれば。そんな出会いは、数多くのコンサートホールにあふれています。素敵「気取り」に、一人でも多くの人が出会えることを祈念して、今夜も街を彩る素晴らしいコンサートの数々に心から拍手をおくりたいと思っております。



中野振一郎(なかの・しんいちろう)/チェンバロ奏者

1986年桐朋学園大学音楽学部演奏学科(古楽器専攻)を卒業。1990年に大阪で開いた4回連続の独奏会「ヨーロッパ・チェンバロ音楽の旅」により「大阪文化祭金賞」等を受賞。翌年7月にはフランスの「ヴェルサイユ古楽フェスティバル」のクーブラン・サイクルに出演。ケネス・ギルバートやボブ・ファン・アスペレンに欧米を代表する名手と肩を並べ「世界の9人のチェンバリスト」の一人に選ばれる。2003年「パッサ・フェスティバル ライブツィヒ 2003」に出演。2004年度文化庁芸術家大賞受賞。2010年チェンバロ演奏のための手引書「チェンバロをひこう」(音楽之友社)を出版。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー5F TEL 06-6363-0211

Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2015年5月
発行 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール
編集 吉元 晃
デザイン 松井桂三有限会社

